



↑最新の添付文書
確認用二次元コード



4209

使用説明書

(使用前に必ず本使用説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。)

2022 年 4 月改訂

動物用医薬品

動物用生物学的製剤

劇薬 要指示医薬品 指定医薬品

貯法：遮光して 2～10℃
有効期間：製造後 2 年 3 か月間

承認指令書番号	27 動薬第 3896 号
販売開始	2016 年 11 月

エクエヌテクト JIT

(一般的名称：馬インフルエンザ不活化・日本脳炎不活化・破傷風トキソイド混合
(アジュバント加) ワクチン)

【本質の説明又は製造方法】

本剤は、豚腎細胞で増殖させた日本脳炎ウイルスにホルマリンを加え不活化したものと、
発育鶏卵で各々増殖させた動物用生物学的製剤基準「馬インフルエンザ不活化・日本脳炎不活
化・破傷風トキソイド混合 (アジュバント加) ワクチン」において定める馬インフルエンザウイ
ルス* (成分及び分量の項参照) を濃縮、精製し、ホルマリンを加えて不活化したもの及び破傷
風トキソイドを混合したものである。

本剤は、静置の状態では沈殿を認めるが、振り混ぜれば淡黄を帯びた灰白色～白色、半透明の
懸濁液となる。pH は 6.3～7.7 である。

*動物用生物学的製剤基準において定める株は、国内外を含めた野外流行株の情報収集及び情
報解析に基づき定期的な見直しがなされる。従って、本剤は、製造販売ロットにより異なる株を
含有することがある。

含有する株についての最新情報は、https://www.jp-nisseiken.co.jp/products/pdf/horse/JIT_i.pdf
を参照のこと。

【成分及び分量】

ワクチン 1mL (1 頭分) 中

MPK-IIIaCl 細胞培養日本脳炎ウイルス	BM III 株 (シード)	
	不活化前ウイルス量として	10 ^{7.35} TCID ₅₀ 以上
発育鶏卵培養馬インフルエンザウイルス (不活化)		
A/equine/Ibaraki/1/2007 (H3N8) 株		100CCA 価以上
A/equine/Yokohama/aq13/2010 (H3N8) 株		100CCA 価以上
破傷風トキソイド (シード)		5Lf 以上
ポリソルベート 80		0.02μL 以下
チメロサル		0.1mg 以下
ホルマリン		2μL 以下
ゼラチン		0.14mg 以下
硫酸カリウムアルミニウム十二水和物	アルミニウム量として	0.5mg 以下
りん酸水素二ナトリウム十二水和物		0.25mg 以下
リン酸緩衝食塩液		残量

【効能又は効果】

馬の日本脳炎、インフルエンザ及び破傷風の予防

【用法及び用量】

ワクチンの 1mL ずつを 4 週間隔で 2 回、馬の筋肉内に注射する。

【使用上の注意】

(基本的事項)

【守らなければならないこと】

(一般的注意)

1. 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
2. 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
3. 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。

(使用者に対する注意)

作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。

(取扱い及び廃棄のための注意)

1. 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
2. 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
3. 本剤には他の薬剤 (ワクチン) を加えて使用しないこと。
4. 小児の手の届かないところに保管すること。
5. 直射日光又は凍結は、品質に影響を与えるので避けること。
6. 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒した器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと (ガス滅菌によるものを除く)。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、常温まで冷えたものを使用すること。
7. 使用時よく振り混ぜて均一とすること。
8. ワクチン容器のゴム栓は 70% アルコールで消毒し、無菌的に取り扱うこと。
9. 滅菌済みの注射針をゴム栓から刺し込み、ワクチンを注射器内に吸引して使用すること。ゴム栓を取り外しての使用は、雑菌混入のおそれがあるので避けること。
10. 使い残りのワクチン及び使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

11. 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

〔使用に際して気を付けること〕

（使用者に対する注意）

1. 誤って人に本剤を注射した場合は、患部の消毒等適切な処置をとること。誤って注射された者は、必要があれば本使用説明書を持参し、受傷について医師の診察を受けること。

本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗	原	アジュバント	
	人獣共通 感染症の当否	微生物の 生・死	有無	種類
日本脳炎ウイルス	当	死	有	アルミニウムゲル
馬インフルエンザウイルス	否	死		
破傷風菌	当	死		

2. ワクチン瓶は破損するおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
3. 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。

（馬に関する注意）

本剤の注射後、まれに一過性の局所の発赤、腫脹、硬結、全身性反応として発熱、元気消失、食欲不振、下痢等を認めることがあるが、これらの反応は通常2～3日中には消失する。

（取扱いに関する注意）

1. 一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
2. 本剤と他のワクチンの同時注射は避けること。なお、本剤注射前後に他のワクチンを注射する場合には、1週間以上の間隔をあげること。
3. 注射部位は70% アルコールで消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
4. 注射器具（注射針）は1頭ごとに取り替えること。

（専門的事項）

（警告）

本剤の注射前には健康状態について検査し、重大な異常（重篤な疾病）を認めた場合は注射しないこと。また、以前に本剤又は他のワクチン投与により、アナフィラキシー等の異常な副反応を呈したことが明らかなもの、妊娠8か月以上のものには注射しないこと。ただし、緊急予防の必要がある時はこの限りではない。その場合、注射適否の判断を慎重に行い、対応すること。

（対象動物の使用制限等）

馬が次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、注射の適否の判断を慎重に行うこと。

- ・発熱、咳、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの。
- ・疾病の治療を継続中のもの又は治癒後間がないもの。
- ・交配後間がないもの、分娩間際のもの又は分娩直後のもの。
- ・明らかな栄養障害があるもの。
- ・他の薬剤投与、導入又は移動後間がないもの。

（重要な基本的注意）

1. 本剤の注射後、少なくとも2日間は安静に努め、移動や激しい運動は避けるよう指導すること。
2. 副反応が認められた場合は、速やかに獣医師の診察を受けるように指導するとともに、副反応に対しては適切な処置を行うこと。

（副反応）

体質によってはまれにアレルギー反応（顔面腫脹、蕁麻疹等）あるいは心悸亢進、呼吸促進、血圧低下、体温低下、流涎、ふるえ等の過敏反応（ショック症状）が現れることがある。この場合には適切な処置をとること。この反応が発現する場合には、通常注射後30分以内に認められる。

薬理学的情報等

詳細は https://www.jp-nisseiken.co.jp/products/pdf/horse/JIT_i.pdf をご覧下さい。

包 装：1本 1mL （1頭分）

製品情報お問い合わせ先

日生研株式会社 製品係 〒198-0024 東京都青梅市新町9丁目2221番地の1
TEL 0428-33-1009、FAX 0428-31-6696

製造販売元：日 生 研 株 式 会 社 東京都青梅市新町9丁目2221番地の1

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記 製品情報お問い合わせ先 に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<https://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。

0000SK00